

(令和6年度第1回理事会議決)

令和5年度(第145期)事業報告書 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

公益社団法人東京地学協会

公益社団法人東京地学協会は、定款第42条に拠り、令和5年度事業上期報告書を以下の通り作成した。

I. 事業方針(定款第3条)

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進する。

II. 事業内容

1. 公益事業

講演会等の行事への参加機会を増やす観点から、会議のオンライン化等を引き続き強化し、必要な周辺機器類の導入やネット接続回線の改良を実施した。

(1) 普及・啓発事業(定款第4条第1号)

① 講演会の開催

特別講演会: 鉱物コレクターとしてのゲーテ — 岩石と対話する詩人

日時: 2023(令和5)年6月17日(土) 15:00～16:30

場所: アルカディア市ヶ谷(私学会館)(東京都千代田区九段北4-2-25)

講演者: 石原あえか(東京大学大学院総合文化研究科教授)

要旨: 「ドイツ詩人」として知られるゲーテ(1749-1832)が、半世紀にわたって収集した鉱物標本から、ヴァイマルに現存する当該コレクションの一部を紹介し、終生、鉱物と深い関わりを持っていた生涯を辿る。

定期講演会: 水蒸気噴火のメカニズムと噴火予知への課題 — 最新の知見と火山防災

日時: 2023(令和5)年7月8日(土) 13:30～16:00

場所: 東京グリーンパレス(東京都千代田区二番町2番地)

講演者: 萬年一剛(神奈川県温泉地学研究所),

行竹洋平(東京大学地震研究所),

大場 司(秋田大学大学院国際資源学研究科)

要旨: 箱根火山などにおける地球物理観測による水蒸気噴火モニタリング等に基づき水蒸気噴火のメカニズムを解明し、噴火予知への課題等について討議した。

定期講演会: 望月勝海教授, かく記録せり一日記に読む地体構造論・地誌記述・地学教育の歴史

(令和6年度第1回理事会議決)

日 時:2024(令和6)年2月24日(土)14:00~16:00

場 所:地学会館 2階講堂(東京都千代田区二番町12-2)

講演者:山田俊弘(東京地学協会日本地学史編纂委員)

要 旨:望月勝海(1905-1963)が生涯書き綴った全57巻の日記を読み解き,20世紀地学史の知られざる一面を垣間見ることを通して,望月の業績の今日的な意義を考えた。

② 見学会の開催

国内見学会:都心1日ジオツアー:国会議事堂と江戸城の石材を見に行こう 一都心の地形を実感する街歩きとともに一

日 時:2023(令和5)年7月8日(土)13:30~16:00

場 所:憲政記念館~水準原点~国会議事堂~江戸城外堀遺構~皇居東御苑
(すべて東京都千代田区)

案内者:中澤 努(産業技術総合研究所)

乾 睦子(国土舘大学),

目代邦康(東北学院大学),

三橋浩志(文部科学省)

③ 広報活動

日本地球惑星科学連合(JpGU)2023年大会

日 時:2023(令和5)年5月21日(日)~26日(金)

場 所:幕張メッセ(千葉市美浜区中瀬2-1)国際展示ホール 及びオンライン展示

内 容:A1判パネル8枚(協会創立・あゆみ,表彰・講演会,主催行事),リーフレット英文版・同邦文版,地学雑誌バックナンバー展示など

ウェブサイト(ホームページ)を通じた広報や情報提供

内 容:ニュース(講演会・地学クラブ開催予定,開催報告,見学会・巡検開催予定・開催報告,助成・表彰,会員向け情報,関係機関からのお知らせ,その他のニュース),協会紹介,入会案内,講演会,見学会・巡検,専門家紹介,助成・表彰,取扱出版物,問い合わせ・道順, ENGLISH

④ 日本地学史の編纂

戦後日本の地学(1945年~1965年)はこれまでに,占領下の再発見,国際会議・国際協力事業・対外協力事業,学術研究体制,教育・研究体制,国土調査事業,防災業務,海洋学,火山学,地震学,地理学まで公刊され,地質学,岩石学,鉱物学,鉱床学,測地学・地球物理学,地球化学,気候学,気象学,陸水学,応用地質学等について,成果の出版に向け引き続き編纂作業を進めた。

(令和6年度第1回理事会議決)

⑤ 図書室の整備

受け入れ雑誌管理方針に従い45種の雑誌を受け入れ整理した。また、創立以来内外の地学に関する調査・研究を行い、その成果の一部を書籍、地図として刊行してきたが、その多くが、現在では入手困難になっていることから、協会が保有する過去の写真をデジタル化し、協会ウェブサイト「ウェブ図書室」のページで公開している。

<http://www.geog.or.jp/library/library>

地質学者・望月勝海(19051905～19631963)が遺した資料について、遺族並びに収蔵する静岡大学図書館と協議し「ウェブ図書室」公開の了解を得て公開準備を進めるとともに、定期講演会でその成果の一部を公表した。

⑥ 専門家紹介(ジオエキスパート制度)

4月3日

依頼者:(一社)日本工業倶楽部

依頼内容:伊能忠敬について商人としての面も含む講演の専門家紹介(指名)

紹介者:星埜由尚 副会長

依頼者:(一社)日本工業倶楽部

依頼内容:伊能忠敬について商人としての面も含む講演の専門家紹介(指名)

紹介者:星埜由尚 副会長

4月6日

依頼者:TOKYO MX TV「ぐるり東京江戸散歩」番組担当

依頼内容:明治22年東京地学協会建立「伊能忠敬測地遺功表」に関する番組についての企画/出演の専門家紹介

紹介者:星埜由尚 副会長

6月13日

依頼者:NHK BSP 「ザ・プロファイラー」番組担当

依頼内容:伊能忠敬に関する番組の制作協力の専門家紹介

紹介者:星埜由尚 副会長(当時)

成果:NHK BSP から「ザ・プロファイラー/地球の円周を測りたかった男 伊能忠敬」が11月16日に放映され、出演した星埜前副会長が、伊能が用いた測量技術等について解説した。

8月24日

依頼者:川口市立朝日公民館

依頼内容:川口市民大学への講師派遣依頼

日本列島における火山と噴火災害、火山を恐れる・火山を楽しむ、歴史に学ぶ防災の知恵、歴史地震研究の楽しみ、

(令和6年度第1回理事会議決)

メタンハイドレート:地球と人類への関わり

紹介者:松本良, 伊藤順一, 小松原琢

11月15日

依頼者:内閣官房領土・主権対策企画調整室

依頼内容:同室が運営する領土・主権展示館 2024年春企画展において「英国伊能小図」と海図作製に関する展示のため, 伊能忠敬についての論文著者による助言を依頼された。

紹介者:八島邦夫(監事)

成果:領土・主権展示館 2024年春企画展『日本の「かたち」を描く—地図・海図編纂にみる領土・海洋認識の変遷—』が, 2月6日~4月14日に催され, 英国伊能小図に関する展示パネルでの解説等に八島監事の助言が反映された。

12月1日

依頼者:NHK「体感!グレートネイチャー」番組担当

依頼内容:ブルガリアの地形・地質についての専門家紹介

紹介者:日本大学名誉教授・三重大学名誉教授の森和紀様(非会員)

12月14日

依頼者:テレビ東京「所でナンじゃこりゃ!」番組担当

依頼内容:アイスランドのプレートについての問い合わせ

紹介者:回答期間が短かったため専門家紹介はせず, 委員会として対応

12月22日

依頼者:目黒区教育委員会「めぐろシティカレッジ」講座企画関係者

依頼内容:「地球史からみる現在の地球」についての講師

紹介者:斎藤靖二会長(指名)

1月31日

依頼者:日本郵船(株)

依頼内容:『飛鳥II』で伊豆七島を巡るクルーズに同行し, 島に近づくごとに, 島の特徴, 歴史などの解説, 黒潮などの海についての解説をしてくださる方を紹介していただきたい。

紹介者:鈴木毅彦会員

⑦ 関連団体との協力の推進

1) 自然史学会連合, 地理学連携機構, 日本学術会議

協力学術研究団体との連携により, シンポジウムの開催, 学術の動向について各種調査協力, 関連する情報の収集・発信等を行った。

日本学術会議公開シンポジウム:文化施設としての自然史系博物館を考える

日時:2023年9月23日(土)13:00 00-18:00

(令和6年度第1回理事会議決)

場 所:オンライン開催(配信, 定員 500 名)

主 催:日本学術会議

後 援:公益社団法人東京地学協会

2) 国際地理オリンピック日本委員会, NPO 地学オリンピック日本委員会

国際地理オリンピック, 国際地学オリンピック等への協賛, 後援または寄付を行った。

3) 日本地球惑星科学連合

千葉市幕張メッセで 5 月に催された学術大会において, 主会場ブース展示とウェブ展示を実施した。

4) 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) /社会技術研究開発センター(RISTEX)

「学協会における責任ある研究活動に関する調査」として, 11 月 13 日(月)に代表理事と事務局長がオンラインヒアリングに回答した。協会の組織概要(役員名簿など)・会員構成(専門領域), 普及啓発事業における実施体制, 実施時期, 学問領域, 他の学協会や官公庁等機関との関係, 地域との関係, 出版頒布事業の特徴と倫理的配慮(マニュアル, 倫理規定など), 多様性・公平性への配慮等について, 先方から提示された質問事項に沿って紹介した。

(2) 出版・頒布事業(定款第4条第2号)

① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号 3 冊と最新の話題や成果を集めた特集号 3 冊, 全 700 ページ(第 132 巻第 2 号から第 133 巻第 1 号まで)を発行した。

i) 第 132 巻第 2 号 特集号:硝酸性窒素による地下水汚染問題の過去・現在・未来. p. 67-196, 10 論文(特集号 Overview 及び巻頭言を含む)及び地学ニュース(N33-N49)

ii) 第 132 巻第 3 号 通常号, p.197-263, 5 論文及び地学ニュース(N51-N66)

iii) 第 132 巻第 4 号 特集号:地球科学とデータ科学に基づく津波堆積物研究の進展と津波防災への貢献(Part I)―津波堆積物を用いた古環境解析と防災教育―. p.265-361, 8 論文及び地学ニュース(N67-N85)

iv) 第 132 巻第 5 号 特集号:地球科学とデータ科学に基づく津波堆積物研究の進展と津波防災への貢献(Part II)―津波堆積物に対する新しい分析方法とデータプロセッシング―. p.363-450, 6 論文(特集号 Overview 及び巻頭言を含む)及び地学ニュース(N87-N93)

v) 第 132 巻第 6 号 通常号, p.451-525, 5 論文及び地学ニュース(N95-N125)

vi) 第 133 巻第 1 号 通常号, p.1-61, 3 論文及び地学ニュース(N1-N26)

本誌の印刷発行と同時に電子版をオンラインジャーナル(J STAGE)として公開し, 地学協会ウェブサイト地学雑誌ホームページからもアクセスできるようにしている。

(令和6年度第1回理事会議決)

② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で2015(平成27)年3月23日に結ばれた「地球科学図・地球科学データ集の有料頒布に関する業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等789種の出版物を取り扱い対象とし、委託販売により頒布した。なお、2011(平成23)年9月からは海外からの購入希望にも応じている。

頒布実績は、304種、594部、払出総額(産業技術総合研究所への納入額)にして約126万円であった。

(3) 研究等助成・表彰事業(定款第4条第3号)

① 研究等助成

今年度は、調査・研究助成4件、国際研究集会3件を採択した。

1) 調査・研究助成(採択案件のみ表記)

1. 栗林 梓(東京大学): 大学進学における離家と東京での学生生活を支える県人寮: 信濃学寮生たちの生活史からみた可能性と課題
3. 近藤康生(高知大学): トウキョウホタテ種群の微細殻成長・酸素同位体分析による生活史復元
6. 谷元瞭太(茨城大学): 房総半島南端地域に分布する海成堆積層を用いた後期鮮新世の連続古地磁気変動復元
8. 山田和芳(早稲田大学): 和歌山県ゆかし潟堆積物を用いた歴史時代の紀伊半島における環境史復元
10. 伊東優希(立正大学): 非常・防災用水としての都市の浅層地下水の有効利用に向けて—地下水の期限, 水質, 利用可能量の評価—

2) 国際研究集会助成

1. 宮本真二(岡山理科大学): アジア・モンスーン地域の災害状況と対応を包括的に比較するワークショップ
2. 三上岳彦(東京都立大学): シーボルト来航200年記念国際シンポジウム: 「出島での気象観測とその歴史的意義: 環境史・東西交流史の観点から」
3. 遠藤一佳(東京大学 第2回アジア古生物学会議)

3) 普及・啓発活動(出版)助成

1. 田邊 裕『地理・地誌・地理学の論理構造』

4) 普及・啓発活動(地学・地理クラブ活動)助成

地学クラブまたは地理クラブ等の活動の一環としての巡検実施等の活動に対する助成申請の受付を公示した。

5) 普及・啓発活動(地学・地理教育)助成

高校においてフィールドワークを伴う地学・地理の授業を担当する教員の授業に関する

(令和 6 年度第 1 回理事会議決)

事前調査, 資料作成, 巡検実施等活動に対する助成申請の受付を公示した。

6) 令和 6 年能登半島地震関連緊急研究・調査助成

令和 6 年能登半島地震に関連する研究・調査であって, 断層, 斜面崩壊, 液状化その他この地震に関する地学的研究・調査, または失われる恐れのある資料及び事象の取得・保存などの観点から緊急を要するもの, 被災地域の復旧・復興または被災者(風評被害を含む。)の救済もしくは安全・安心の確保に資するもの, 本地震被災地に特徴的被害をもたらした地理的条件にかかるものにかかわる助成申請の受付を公示した。7 件の申請があり, 調査・研究及び国際研究集会助成対象者選考委員会を招集し採否を審議した。

② 表彰

正会員より東京地学協会メダル候補者の推薦があり, その選考について審議を行った。審議の結果, 太田陽子横浜国立大学名誉教授を, 「海成段丘の研究に基づく変動地形学の構築および第四紀学への国際的貢献」により東京地学協会メダルを授与し表彰することとした。

2. 収益事業(定款第 5 条第 1 号)

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業: 引続き地学会館ビルの一部(地下, 1 階の一部及び 3 階~7 階)を賃貸した。

会館の保全に関しては, 建築基準法, 消防法及び水道法に基づく点検並びに電気設備の点検を実施するとともに, 東京地学協会使用部分について火災及び侵入を通年 24 時間監視した。なお, 賃貸部分については, 入居者が自ら監視している。

Ⅲ. その他

経理上の不正リスク対策

本協会の経理は経理規程により全ての会計伝票に事務局長の認印を押印し, 支出証拠をもれなく整理保管した。50 万円以上の物品購入及び工事については原則として相見積りを取得して業者を選定した。公益目的事業経費の中で最も大きな比率を占める『地学雑誌』印刷業務は, 公募入札により業者を選定し, 経費(単価)を従来比約 50%縮小した。助成金に関しては, 助成対象者に会計報告を求め, 助成対象者選考委員会が会計報告及び『地学雑誌』各 1 ページに印刷する調査報告を点検している。

付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」

令和 4 年度事業報告には, 「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。